

KSL日本語母語話者の謝罪行為に関する意識

－謝罪行為の変化と自分自身の謝罪行為に対する評価を中心に－

沈 貞 美*

The survey was conducted on July to August in 2013. Those questioned are 131 Japanese native speakers using KSL (Korean as a Second Language), living in Seoul. It was investigated that whether there is a change in apology acts when they came to Korea, and what has changed, if found. In addition, what was the reason that has changed.

As a result, KSL Japanese native speakers of the majority replied that there was no change in apology acts. Others was answered that there was a change to a negative direction of decreasing apology acts. The change was affected by Koreans' habits not to apologize easily.

KSL Japanese native speakers evaluated very negatively apology acts of Korean. But they evaluated very positively apology acts of Japanese. Their apologies affected to some extent on the apology acts of Korean was evaluated positively than Korean apologies, but negatively than Japanese apologies.

Key words : KSL Japanese native speakers, the changes of apology acts, the evaluation of apology acts
(KSL日本語母語話者、謝罪行為の変化、謝罪行為の評価)

1. 序論

外国語でコミュニケーションをする場合には、言語学的知識に加えて、その言語が使用されている社会における人々のものの考え方や相互作用のルールを知っていることが重要である。特に、異文化接触が増えつつある現在ではもっとも重要な知識であると考えられる。異な

* 慶北大学校講師、社会言語学及び異文化教育専攻

る文化背景を持つ人々が接する際には、誤解や摩擦などが起き、不均衡な人間関係になる可能性が非常に高い。その意味で、人間関係修復のシステムとして捉えられている謝罪行為は異文化接触においては必須不可欠な言語行動であると言っても過言ではないと思われる(熊谷1993、森山1992)。

さらに、謝罪という行為は基本的な対人行為であるだけでなく、そこには特定の社会における倫理観や規範、相互作用のルールが投影されているため、ある文化・コミュニケーション行動を考える上で、非常に興味深い題材であると言えよう(熊谷1993)。国立国語研究所(1999)では、実際日本文化と他文化が接した際の文化摩擦に関して調査を行っているが、日本と韓国の中で起こる摩擦の中、謝罪行為が原因で起こる摩擦が数多く見られた。また、沈(2004)では日・韓における謝罪行為をめぐる誤解や摩擦の原因として、両国における謝罪ストラテジーの違いに着目し、日・韓における謝罪ストラテジーの比較研究を行った。その結果、日本は「謝罪専用の定型表現」を、韓国は「表情や身ぶり」などの非言語的な謝罪ストラテジーをより多く使うことが示された。その両国における謝罪ストラテジーの違いのため、実際に日本社会に接触している韓国人、または、韓国社会に接触している日本人は、謝罪行為をめぐる摩擦やトラブルを経験しているのではなかろうか。

そこで、本研究では韓国に滞在している日本人韓国語学習者(以下KSL日本語母語話者とする)が、自分と異なる謝り方をする韓国文化に入り、その文化をどのように受け入れるのか、その姿を明らかにしたい。つまり、KSL日本語母語話者は韓国社会に住むことにより、多様な側面で接触して行くと考えられるが、ここでは、焦点を謝罪行為に当てた、ミクロな異文化接触の姿を検討することにする。また、韓国人の日本語学習者に、両国の文化接触際に起きうる葛藤の可能性に関する情報を提供することで、韓・日両国におけるより良い相互交流に役立ちたいと思う。

2. 先行研究の検討および研究課題

これまでの謝罪行為に関する研究は、日本特有の謝罪表現、つまり謝罪定型表現が多様な機能を果たしていることに注目した研究(住田1992、小川1993、井出1993、許仁順1996、金敏智2011など)や日本と他国との謝罪表現及び謝罪行為の対照研究(池田1993、三宅1993、大谷2004、守屋2007、李正美2008など)が主になされてきた。

近年、日本語教育において学習者の中間言語の研究対象は、音声・形態・統語論のレベルから、意味・語用論のレベルまで広がってきた。その中で多くの研究が「依頼」や「断り」、「ほめに対する返答」といった発話行為に焦点を当て、日本語学習者による言語使用の特徴、母語からの転移の実態などを明らかにしてきた。ところが、不均衡になった対人関係を修復する機能を持つ異文化コミュニケーションで最も重要な発話行為である「謝罪行為」を対象とした研究はまだ少ない。日本社会に直接接しているJSL(Japanese as a Second Language)に関する研究は堀江(1993)のJSLタイ語母語話者を対象とした研究しか見当たらない。

堀江は、日本とタイ両国の謝罪表現に対する使用範囲の差を謝罪表現が現れそうな状況を設定し、比較・分析を行うことから、タイ人が感じる日本語の代表的な謝罪表現である「すみません」などに関する認識と意識の差をも明らかにしている。

ところが、そのJSLタイ語母語話者の日本社会に接することによる具体的な謝罪行為の変化やその変化の背景にある要因などについては検討していない。つまり、謝罪行為に関する一面だけを扱い、異文化接触という視点からの総合的な考察までには行っていない。そこで、本研究では、韓国に滞在しているKSLの謝罪行為に焦点を当てて調査を行った。研究課題は以下の通りである。

- 研究課題 1. KSL日本語母語話者は韓国へ来てから謝罪行為に変化があったのか？ 変化があったら、どのように変化した、変化の理由は何か？

研究課題 2. KSL日本語母語話者は韓国での自分自身の謝罪行為について、どのように評価しているのか?

3. 研究方法

3.1 質問紙作成

本調査の質問紙は、「質問」「自由記述」「フェイスシート」から成っている。堀江(1993)、沈(2004)で用いられた項目を新たにまとめ、さらに、KSL日本語母語話者に対するインタビューや筆者の経験をもとに、KSL日本語母語話者の韓国人、日本人の謝罪行為に対するイメージに関する項目を、5点尺度(とてもそう思うー全くそう思わない)で作成した。その後、KSL日本語母語話者15名を対象に予備調査を行い、さらに項目の精選および質問紙の改善を行った。その結果、5点尺度の謝罪行為の変化に関する質問6項目と、韓国人・自分自身・日本人の謝罪行為の評価に関する質問36項目を作成した。それに自由記述2項目を加えた。最後にフェイスシートにて、性別、年齢、韓国滞在期間、現居住地、学校、韓国語レベル、韓国人と話す機会、よく接する韓国人などについて尋ねた。

3.2 調査の概要

本調査は2013年7月から8月初旬にかけて知人経由で配布、回収した。質問紙に答えるのにかかる時間は10分ほどで短いため、ほとんどその場で配布・回収した。そのため、回収率はほぼ100%に近い。

調査対象者はソウルに住んでいる日本人留学生(ほぼ交換留学生、西江大、建国大、慶熙大、梨花女子大、延世大など)131名で、男女の比率は女性の方が男性より約3倍くらい多い。今回の調査ではビジネスマンは除外し、すべて学生である。そのため、年齢はすべてが、20代と30代である。対象者の滞在期間に当たっては、【表1】のよ

うに、6ヶ月未満、6ヶ月-1年未満、1年-2年未満の3つのグループに分けることができた。

韓国語のレベルは自己評価式で答えてもらったが、韓国での滞在期間が6ヶ月未満の人がほぼ60%であるため、ほとんどが中・初級である。

韓国人と話す機会は、ほぼ毎日と1週間に2、3回が82%程度で、韓国人との接触度はかなり高いと言える。よく接する韓国人は、友だち、先生がほとんどである(表1)。

【表 1】調査対象者の属性一覧

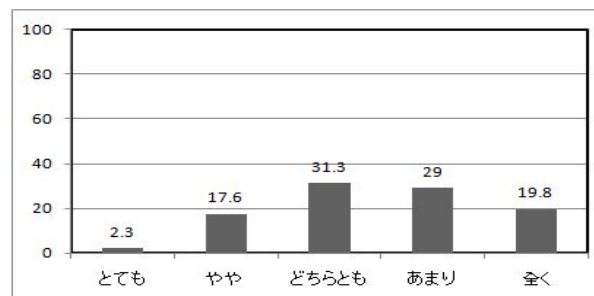
()は人数である

全体		100%(131名)
性別	男性	25.2%(33)
	女性	74.8%(98)
年齢	19-24歳	51.1%(67)
	25-29歳	34.4%(45)
	30代	14.5%(19)
滞在期間	6ヶ月未満	57.3%(75)
	6ヶ月-1年未満	26.0%(34)
	1年-2年未満	16.8%(22)
語学レベル	意思の疎通に困らない	6.9%(9)
	大体理解できる	37.4%(49)
	片言	47.3%(62)
	ほとんど理解できない	8.4%(11)
韓国人と話す機会	ほぼ毎日	51.1%(67)
	1週間に2,3回ほど	31.3%(41)
	1ヶ月に2,3回ほど	6.1%(8)
	ほとんどない	11.5%(15)
よく接する韓国人 (複数選択可能)	友だち	60.3%(79)
	先生	58.8%(77)
	アルバイト先の人	8.4%(11)
	その他	13.7%(18)

4. 結果と考察

4.1 謝罪行為の変化

(1) 自分自身の謝罪行為の変化とその変化の理由



【図 1】私の謝り方は韓国へ来てから変化があった

KSL日本語母語話者は、「私の謝り方は日本へ来てから変化があった」という項目に対し、約50%の人が「あまり・全く変化してない」と答えた。それに対し、「やや・とても変化した」と応答した人は約20%くらいで、変化してないと答えた人にくらべ2倍弱である。ところが、「どちらとも言えない」という曖昧な項目に31.3%の人が答えている。さて、変化を経験している人は、どのような謝罪行為の変化を経験し、また、その変化の理由は何であるのかを知るため、次のような5点尺度の質問4項目と自由記述質問1項目を設けた。

《5点尺度の質問》

- ・ 私は韓国へ来てからささいな過ちには謝らないようになった
- ・ 私はだんだん、「죄송합니다」「미안합니다」などの謝罪表現をよく使わなくなった。
- ・ 私は韓国で日本人の友だちに謝るとき、日本語の「ごめん」より韓国語の「미안」を使う。
- ・ 私の謝り方は日本人より韓国人に近い。

《自由記述質問》

- ・「もし、あなたが日本に来てから、自分の謝り方に変化があったとしたら、どのような変化がありましたか、また、そのように変化した理由は何だと思われますか」

これらの質問に対する答えから検討することにする。まず、謝罪行為の変化を経験したKSL日本語母語話者の応答をまとめると次の【表2】のようにまとめられる。

【表 2】KSL日本語母語話者の謝罪行為変化の姿

数字は回答数

カテゴリー	変化の傾向	具体的な応答内容
1. 謝罪行為の有無 (25)	謝らなくなった	・ 謝らなくなった ・ ささいなこと(ぶつかる・こまかいこと・ちょっとしたこと・小さいことなど)にはあやまらなくなった
2. 謝罪行為の態度 (9)	丁寧に謝らなくなった	・ 「すみません」「ごめんなさい」と言葉を言わなくなった ・ あまり言葉を言わなくなった ・ 相手より先に謝らない ・ すぐ謝らない ・ 声が小さくなった
3. その他(3)	韓国語で謝るようになった。	・ とっさの時でも韓国語で謝るようになった

【表2】を見ると、KSL日本語母語話者の中で、謝罪行為の変化を経験している人は、どのような変化を経験しているのかがわかる。その変化というのは、謝罪行為の有無と謝罪行為の態度という2つのカテゴリーでまとめられる。

詳細をみると、謝罪行為の有無においては、日本では謝罪行為を行った事柄に対して、韓国へ来てからは謝らなくなったという変化である。また、謝罪行為の態度においては、謝罪言葉を使わず、丁寧に謝らなくなったと答えている。

さて、【表2】のように変化した理由についてまとめると次の【表3】の通りである。

【表 3】KSL日本語母語話者の謝罪行為の変化の理由

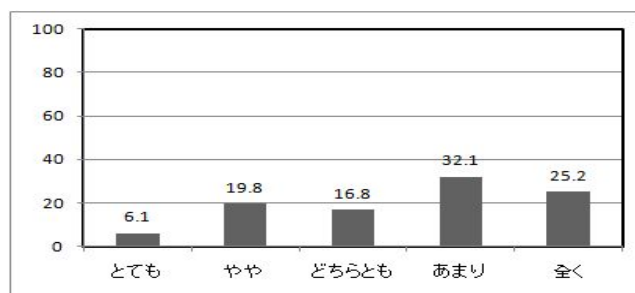
数字は回答数

カテゴリー	理由の傾向	具体的な応答内容
1. 異文化のまね (25)	韓国人が謝らないから自分も謝らない	・ 周囲の韓国人が謝らないから ・ 韓国で「すみません」と言われたこともないし、聞かないので ・ 謝っても無視されるから ・ 韓国生活に慣れたから
2. 異文化の理解 (10)	ささいなことに對して謝らないのは韓国の文化である	・ 「謝ったら負け」と思ってる韓国で、むやみに謝ると危険なので ・ 韓国では謝る行動がおかしいのか考えてしまう ・ 韓国人は小さいことには謝る必要がないと考えていると聞いたから ・ 韓国の文化に適應するために ・ 韓国の友人は謝ると中がよくない相手にまだ気を使っていると思っているから
3. 言語的な問題 (3)	韓国語の発音が難しい	・ 韓国語で発音やイントネーションが難しいから

【表3】を見ると、自分の謝罪行為の変化の原因を大きく三つのカテゴリーにまとめることができる。変化を経験している多くの人々が、単純に接する韓国人があまり謝らないから、自分も謝らないと答えている。韓国人は気にしてないことに對して、自分だけが気を使って謝る行動は不自然に感じられるだろう。また、このような単純な理由ではなく、韓国社会はささいなことに謝らない文化であって、韓国の文化に適應するためには、謝りすぎないように注意した方がよいと思っていることが窺えた。

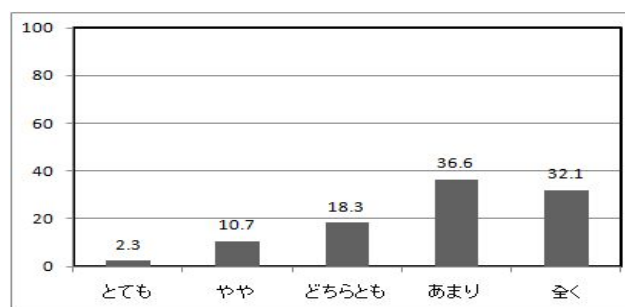
その他には、韓国語で謝った場合に、発音やイントネーションが不自然であるから黙ってしまうと答えた少数の人がいた。

次に、5点尺度の質問を通して、応答者の全体的な傾向を見てみる。



【図 2】 ささいな過ちには謝らなくなった

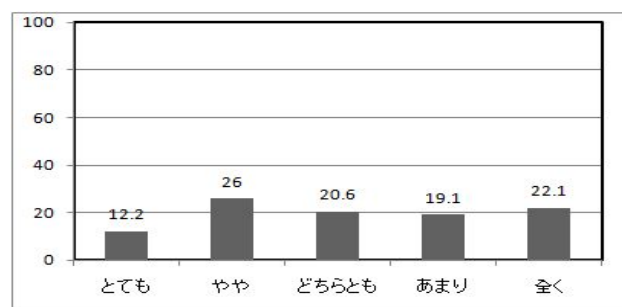
【図2】を見ると、50%以上の人が、日本にいる時と相変わらず、ささいなことに対しても謝ると答えたが、25%の人は謝らなくなったと応答している。どちらとも言えないと答えた人は、約17%を占めている。



【図 3】 「죄송합니다」「미안합니다」などの謝罪表現をよく使わなくなった

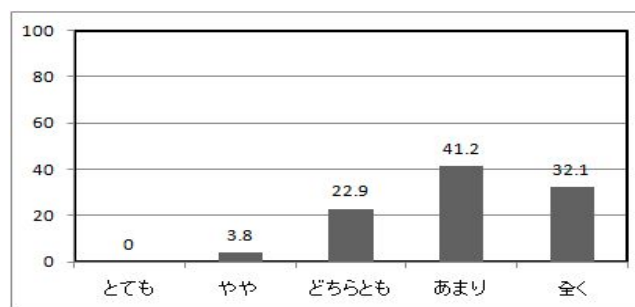
【図3】を見ると、謝罪定型表現をよく使う日本人の特徴が、韓国に来ても続いていることが窺える。韓国へ来てから、謝罪定型表現が使わなくなったと答えた人は、12%に過ぎず、約70%の人がそうで

ないと思っていた。これは、謝罪以外にも多用される日本語の謝罪定型表現の使い方が影響された結果であると言えよう。つまり、謝罪場面以外にも多用される日本語の「すみません」「ごめんなさい」にあたる韓国語の「죄송합니다」「미안합니다」も同じく多用していると推測される。



【図 4】日本人の友だちに「ごめん」より「미안」を使う

【図4】は謝罪する際の言語使用に関することで、韓国で日本人の友だちに謝るとき、韓国語を使うと答えた人と日本語を使うと答えた人がほぼ同じ割合を占めている。現在生活している国が韓国であるため、韓国で接する日本人に対する謝る言葉を選択する場合、韓国語の謝罪表現を使うことは予測できることであろう。



【図5】私の謝り方は日本人より韓国人に近い

韓国へ来てから、周りの韓国人の謝罪行為に影響され、ささいな過ちにはよく謝らなくなったり、丁寧に謝らなくなったりなど、謝罪行為においてやや否定的な方向へ変化があったとしても、自分の謝罪行為が日本人より韓国人に近いと思っている人はほぼいないと応答している。「あまり・全くそう思わない」と答えた人は70%を過ぎ、「どちらとも言えない」と応答した人は約23%を占めている。

(2) 相手による謝罪行為の変化とその変化の理由

KSL日本語母語話者は韓国社会で接する相手が日本人であるか韓国人であるかによって違う方法で謝罪を行うか、それとも相手が誰であれ、同じ謝罪行動をとるのか、を調べるため下記の5点尺度の質問1項目と自由記述質問1項目を設けた。

《5点尺度の質問》

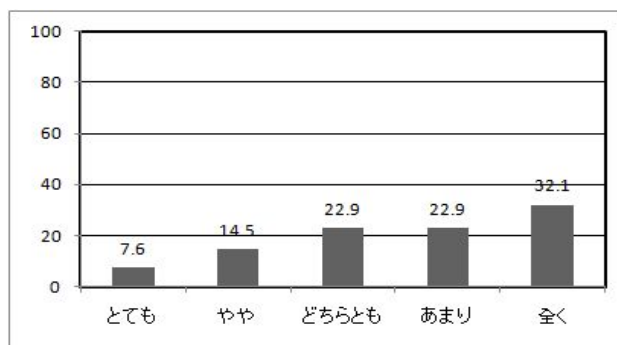
私は韓国では、接する相手が日本人か韓国人かによって謝り方が違う。

《自由記述質問》

「もし、あなたが韓国で生活しているとき、相手が韓国人か日本人かによって違う謝り方をするとしたら、どのように違いますか。また、違う謝り方をする理由はなんですか。」

その結果、次の【図6】で示されているように、過半数の人は相手に関係なく、同じ謝り方をすると答えた。相手が韓国人であるか、日本人であるかによって違う謝り方をとると言った応答者は約22%を占めている。どちらとも言えないを選択した人も22.9%である。

相手によって異なる謝罪行為を行うと答えた人は、相手が日本人である場合と韓国人である場合に、それぞれ具体的にどんな謝罪行為を行うのかについて、自由記述質問に対する答えから検討することにする。



【図 6】私は韓国では、接する相手が韓国人か日本人かによって謝り方が違う

まず、「どのように違うのか」についてまとめて見ると以下【表4】のようにまとめられる。

【表 4】KSL日本語母語話者の相手による謝罪行為変化の姿

数字は回答数

カテゴリー	変化の傾向	具体的な応答内容
1. 謝罪行為の有無 (15)	韓国人にはささいなことには謝らないが、日本人には必ず謝る	・ 韓国人には謝らないが、日本人には礼儀として非がなくても謝る ・ 韓国人ならなるべく感謝の表現を使ってあまり謝らないよう努力する ・ 韓国人には小さなことなら無視する ・ 韓国人だったら本当に悪いと思ったときに謝る
2. 謝罪行為の態度 (7)	韓国人に対しては、丁寧に謝らないが、日本人に対しては礼儀正しくちゃんと謝る	・ 韓国人には口だけ、日本人には動作も ・ 日本人にはすぐ謝る ・ 日本人に対しては、表情と言葉でちゃんと謝る ・ 日本人には、とりあえず謝る
3. その他 (3)	相手の国による言語で謝る	・ 韓国人には韓国語、日本人には日本語

KSL日本語母語話者の相手による謝罪行為変化の姿も、KSL日本語母語話者の謝罪行為の変化の姿のカテゴリーと同じく3つにまとめ

らた。詳細を見ると、謝罪行為の有無において、相手が韓国人の場合には謝らないが、同じ場面であっても相手が日本人になるととりあえず謝ると答えている。謝罪行為の態度にあたっては、韓国人には丁寧な態度をとらないが、日本人に対しては、謝ったらすぐ・表情と言葉でちゃんと謝ると答えている。

以上のことから、相手によって異なる謝罪行為を行うKSL日本語母語話者は、相手の謝り方の傾向に合わせて自分の行動を選択して行っていることがうかがえる。次に、「相手によって異なる謝罪行為を行う理由」について、回答数が少ないため、全体的な傾向のみ述べることにする。【表4】のように相手によって違う謝り方をする理由として、応答者の大分が「日本人は先に謝ってくるから自分も謝るようになり、韓国人はちいさなことはあやまらないし、謝っても無視されるから気分が悪くなるためあやまらない」と答えていた。

「日本人は謝罪や礼儀を大事にしている部分があって、韓国とは謝罪の意味合いが違うと思う」という意見もあった。

4.2 自分自身の謝罪行為に対する評価

(1) 謝罪定型表現の使い方に対する評価

前述したように、KSL日本語母語話者の過半数は謝罪行為の変化を経験してないが、経験している人は多少否定的な方向への変化であると言える。このことは、KSL日本語母語話者の韓国における自分の謝罪行為の評価に何らかの影響を及ぼすと予測される。

さて、韓・日両国の謝罪行為において、もっとも違うと考えられるのが、両国における謝罪定型表現の使い方ではないかと思われる。実際、日本語における謝罪定型表現は謝罪以外の場面(あいさつ、感謝、談話の開始・終結など)にも多用され、その特徴を明らかにするための数多くの研究がなされてきた(小川1993、井出1999など)。韓国語においては謝罪定型表現が謝罪以外の機能として使われる場面はごく稀であろう。そこで、韓国社会に接しているKSL日本語母語話者が自分自身の「죄송합니다」「미안합니다」の使い方に対しては

どのように評価しているのかについて調べてみる。さらに、韓国人の「죄송합니다」「미안합니다」の使い方に対する評価と、自国における日本人の謝罪定型表現、つまり、「죄송합니다」「미안합니다」にあたる日本語の「すみません」「ごめんなさい」(生越1993)の謝罪定型表現の使い方についても尋ねてみた。その結果は下記の【表5】の通りである。

【表5】謝罪定型表現の使い方に対する評価

3集団による平均得点の分散分析

	質問項目	韓・自・日の比較
1	一般的に○○人は「すみません」「ごめんなさい」などの謝罪表現を必要な場合にもあまり使わない。	**韓3.43 > 自1.88 **自1.88 > 日0.60 **韓3.43 > 日0.60
2	一般的に○○人は自分に非があると思わなくても、「すみません」「ごめんなさい」と言うと思う。	**韓2.08 < 自3.48 **自3.48 < 日4.28 **韓2.08 < 日4.28
3	一般的に○○人は自分に非があると思っても、「すみません」「ごめんなさい」とは言わないと思う。	**韓3.15 > 自1.75 **自1.75 > 日1.96 **韓3.15 > 日1.96
4	一般的に○○人は「すみません」「ごめんなさい」などの謝罪表現を状況に応じて適切に使っていると思う。	**韓3.08 < 自3.47 **自3.47 < 日3.92 **韓3.08 < 日3.92

**p<0.01、(韓国人→韓、自分自身→自、日本人→日に表記する)

【表5】を見ると、KSL日本語母語話者は、自分自身の謝罪定型表現の評価を、4つの項目すべてにおいて、韓国人と日本人の間に位置づけている。

韓国社会に住むことによって、謝罪行為において、韓国人に影響されていることが窺える。洪珉杓(1999)は、日常的な行動はほぼ無意識的に行われるのに対し、その行動のついて質問されると意識的(建前)に答え、これが質問紙法による調査の限界、または問題点だと指

摘しながら、とくに謝罪行為は道徳性に関するため、実際の行動より理想の行動で答える可能性があると述べた。

このことから上の結果を検討すると、韓国人や日本人より、自分の謝罪行為をよりよく評価しがちであるが、韓国人よりは肯定的に日本人よりは否定的に評価しているということは、韓国人から謝罪行為において、否定的な影響を受けたためであると考えられる。

(2) 謝罪行為に対する全体的な評価

KSL日本語母語話者が韓国人、自分自身、日本人の謝罪行為についてどのような全体的な印象を持っているのかを知るために設けた5つの質問を以下の二つのグループにわけてみた。

〈誠実さ〉 一般的に〇〇人の謝り方は誠実だと思う 一般的に〇〇人の謝り方は礼儀正しいと思う 一般的に〇〇人はささいな過ちでも謝る方だと思う
〈真実さ〉 一般的に〇〇人の謝り方は形式にこだわると思う(逆) 一般的に〇〇人は心から謝ると思う

これから、謝罪行為の誠実さ・真実さごとに、KSL日本語母語話者は自分自身の謝罪行為をどのように評価しているのかを、韓国人と日本における日本人の謝罪行為との比較を通して、詳細に見ていくことにする。

【表 6】誠実さの面

3集団による平均得点の分散分析

	韓国人	自分自身	日本人
一般的に〇〇人の謝り方は誠実だと思う	2.95	3.39	3.83
一般的に〇〇人の謝り方は礼儀正しいと思う	2.89	3.29	3.95
一般的に〇〇人はささいな過ちでも謝る方だと思う	2.13	3.12	4.37
合計	2.65	3.26	4.05
三集団の比較	**韓2.65 < 自3.26 < 日4.05 **韓2.65 < 日4.05		

**p<0.01

【表6】を見ると、【表5】と同じ傾向が窺える。謝罪行為の誠実さの面において、KSL日本語母語話者は日本人>自分自身>韓国人の順に評価しており、3集団において分散分析を行った結果有意な差が認められた。

【表7】真実さの面

3集団による平均得点の分散分析

	韓国人	自分自身	日本人
一般的に〇〇人の謝り方は形式にこだわると思う (逆)	2.23 (2.77)	2.43 (2.57)	1.69 (3.31)
一般的に〇〇人は心から謝ると思う	3.05	4.14	3.63
合計	2.64	3.28	2.66
三集団の比較	韓2.64 < 日2.66 < 自3.28 **日2.66 < 自3.28 **韓2.64 < 自3.28		

**p<0.01

真実さの面においては、謝罪定型表現に対する評価(表5)と謝罪行為の誠実さの面(表6)に対する評価と異なる傾向が表れた。つまり、謝罪定型表現の使い方や謝罪行為の誠実さの面においては、日本人〈自分自身〉韓国人の順に評価をしていたが、真実さの面においては、自分自身〈日本人〉韓国人の順に、自分自身を日本人よりも高く評価している。3集団で分散分析を行った結果、日本人と韓国人とは有意な差が認められず、他の集団においては有意な差が認められた。

日本人は自分に非がなくても、相手との円滑な関係を保持する目的で、またはエチケットとして謝る場合が多いため(小川1993、井出1999など)、むしろその面が真実ではないと評価されることが考えられる。韓国人の場合には、形式的に謝る傾向はないが、心から謝っていると感じられるほど誠実に謝らないため、真実さの面においてマイナスなイメージを与えるだろう。ところが、韓国人の謝罪行為にある程度影響され、日本にいる時ほど頻繁に謝罪言葉を使わず、謝罪場面だけ謝るようになった自分自身の謝罪行為を真実さの面においては良い評価を下しているのではなかろうか。

5. まとめと今後の課題

本論文は、異文化接触の視点から、実際韓国社会に接触しているKSL日本語母語話者の謝罪行為の実態を把握しようとしたものである。そこで、KSL日本語母語話者の謝罪行為における変化やその理由、また、韓国社会で接触する相手(韓国人であるか、日本人であるか)による謝罪行為の姿を明らかにした。さらに、異文化における自分自身の謝罪行為に対する評価を、韓国人の謝罪行為に対する評価と日本における日本人の謝罪行為に対する評価との比較を通して、浮彫りにした。

その結果、過半数のKSL日本語母語話者は韓国に来て、謝罪行為において変化はなかったと答えた。謝罪行為における変化を経験したと答えた人は、謝罪行為の有無や謝罪行為の態度において変化があったと応答した。要するに、ささいなことに対しては謝らなくなり、謝

罪の態度においてもあまり丁寧な謝り方ではない、かなり否定的な方向への変化であると言える。その理由としては、自分か現在接触している韓国人の謝罪行為に影響されたからであると答えた。

また、KSL日本語母語話者は韓国人の謝罪行動に関しては非常に否定的に評価を下したが、日本人の謝罪行動に関しては、非常に肯定的に評価をした。韓国人の謝罪行為にある程度影響を受けた自分の謝罪行為に対しては、韓国人よりは肯定的に、日本人よりは否定的に評価した。ただし、謝罪行為の真実さの面においては、自分自身の謝罪行為を最も高く評価していることがわかった。

今後の課題としては、まず、調査対象者をビジネスマンに拡大することである。それは、学生の環境より、職場といった組織の中では、人間関係が特に強調されるからである。また、謝罪行為が原因で起る異文化葛藤の解決策の模索も必要であろう。

参考文献

- 김순미(1996) 「한일 대학생의 언어행동비교 - 사회행위와 사회적 요인과의 상관관계를 중심으로 -」 『일본학보』 37권, 한국일본학회, pp.221-237.
- 김민지(2011) 「일본 기업 홈페이지 공지문에 관한 고찰 - 사회문의 표현을 중심으로 -」 『일본언어문화』 19권, 일본언어문화학회, pp.71-89.
- 沈貞美(2004) 『韓・日両国における謝罪行為の比較』 慶北大学修士論文, pp.73-76.
- 이정미(2008) 「한일 양국의 서비스 불만에 대한 사과표현 연구 -호텔종사원의 전화응대를 중심으로-」 『일본어교육연구』 46권, 한국일본어교육학회, pp.159-184.
- 許仁順(1996) 「現代日本語の曖昧な表現に関する考察-感謝と謝罪表現に関して-」 『全北大学教育論叢』 16, 全北大学教, pp.109-129.
- 洪珉杓(1996) 「感謝と謝罪表現の韓日対照」 『日本学年報』 第17輯, 日本研究学会, pp.65-86.
- 守屋美佐子(2007) 「韓日両言語における謝罪表現と感謝表現の対照研究 -大学生の意識を中心に-」 慶尚大学博士論文, pp.164-171.
- 池田理恵子(1993) 「日米対照研究 - face という視点からの一考察 -」 『日本語学』 12月、明治書院, pp.13-21.
- 井出里咲子(1999) 「挨拶行動としての‘すみません’」 『日本研究』 14号、中央大学, pp.275-290.
- 小越まり子(1993) 「謝罪の対照研究-日朝対照研究-」 『日本語学』 12月、明治書院, pp.29-38.
- 大谷麻美(2004) 「謝罪と感謝の日・英対照研究 -話し手の心理からの考察-」, お茶の水女子大学博士論文, pp.161-168.

- 小川治子(1993a)「すみませんの社会言語学考察」『言語文化と日本語教育』第6、お茶の水女子大学日本語文化学会、pp.16-25.
- 熊谷智子(1993)「研究対象としての謝罪」『日本語学』12月、明治書院、pp.4-12.
- 住田幾子(1992)「日本語の詫びのあいさつことば」『日本文学研究』26号、梅光女学院大学日本文学会、pp.309-314.
- 西原領子他(1992a)『在日外国人と日本人との言語行動的接触における相互「誤解」メカニズム-日本語と英・タイ・朝・仏語総合的対照研究-』国立国語研究所、pp.58-69.
- _____(1999b)『言語事象を中心とした我が国をとりまく文化摩擦の研究』国立国語研究所、pp.243-267.
- 堀江・インカピロム・プリーヤー (1993)「日・タイの謝ることばと行動の比較」『国研報告』105、国立教育政策研究所、pp.403-438.
- 三宅和子(1992a)「『感謝』と『詫び』にみるイギリス人とアメリカ人の言語行動」『言語行動論報告2』荻野綱男、pp.71-83.
- _____(1993b)「詫び以外で使われる詫び表現」『日本語教育』82号、日本語教育学会、pp.134-146.
- 守屋美佐子(2001)「日韓謝罪の定型表現とストラテジー」『日本語教育』18、日本語教育学会、pp.13-26.
- _____(2003)「謝罪と感謝の対象と表現-韓日語対照研究」『日本語教育』22、日本語教育学会、pp.25-43.
- _____(2004)「韓国語と日本語の謝罪表現と感謝表現」『日本語教育』28、日本語教育学会、pp.43-60.
- 森山卓郎(1992)「関係修復のコミュニケーション」『藤森ことばの論集』清文堂、pp.13-46.

〈付録〉質問項目

- ・5点尺度(とてもそう思う-全くそう思わない)の質問
- 私の謝り方は韓国へ来てから変化があった。
- 私は韓国へ来てからささいな過ちには謝らないようになった
- 私はだんだん、「죄송합니다」「미안합니다」などの謝罪表現をよく使わなくなった。
- 私は韓国で日本人の友だちに謝るとき、日本語の「ごめん」より韓国語の「미안」を使う。
- 私の謝り方は日本人より韓国人に近い。
- 私は韓国では、接する相手が日本人か韓国人かによって謝り方が違う。
- 一般的に○○人は「すみません」「ごめんなさい」などの謝罪表現を必要な場合にもあまり使わない。
- 一般的に○○人は自分に非があると思わなくても、「すみません」「ごめんなさい」と言うと思う。
- 一般的に○○人は自分に非があると思っても、「すみません」「ごめんなさい」とは言わないと思う。
- 一般的に○○人は「すみません」「ごめんなさい」などの謝罪表現を状況に応じて適切に使っていると思う。
- 一般的に○○人の謝り方は誠実だと思う
- 一般的に○○人の謝り方は礼儀正しいと思う

一般的に○○人はささいな過ちでも謝る方だと思う

一般的に○○人の謝り方は形式にこだわると思う

一般的に○○人は心から謝ると思う

・自由記述質問

・「もし、あなたが日本に来てから、自分の謝り方に変化があったとしたら、どのような変化がありましたか、また、そのように変化した理由は何だと思われますか」

「もし、あなたが韓国で生活しているとき、相手が韓国人か日本人かによって違う謝り方をするとしたら、どのように違いますか。また、違う謝り方をする理由はなんですか。」

성 명(한 글) : 심 정 미

(한 자) : 沈 貞 美

(영 문) : Sim Jung-Mi

논문영어제목 : The Perception of Apology Acts of Japanese
Native Speaker as KSL - Focused on the Changes
of Apology Acts and the Evaluation of their Own
Apology Acts -

소 속 : 경북대학교 시간강사

E-mail : sim1279@hanmail.net

투 고 일 : 2014년 1월 10일

심사개시일 : 2014년 1월 13일

심사완료일 : 2014년 2월 4일